

支援拠点の駄菓子屋（開田 2 丁目 14 番 9 号）



駄菓子屋にて毎週金曜日に
焼きイモ販売（就労体験プログラム）



社会参加の場づくり（居場所）

バリスタ体験



まき割り体験



寺清掃通じ就労準備

長岡京の生活困窮者ら



境内の落ち葉を拾う参加者(長岡京市・勝龍寺)

NPO支援 社会と「つながり」

生活が困難している人や引きこもりの人が、勝龍寺(長岡京市勝龍寺)内で清掃活動をする取り組みが行われている。就労に向けた作業として、事業所の外に飛び出して多様な働き方に触れてもらう。主催団体としても地域内での支援ネットワークを広げるきっかけづくりを目指す。

NPO法人障害者事業協会 5年前に交通事故に遭い、左足に後遺症がある。高職2丁目)が、園芸に興味がある利用者がいたことから、現在は生活保護を受給している。

男性は「もともと通い始め、決まった時間に働くことで、暮らしにメリハリがでる。困らないうちから、相談できると、社会的つながりがあるのがありがたい」と喜ぶ。ももでは、就労支援以外にも引きこもりなどで悩んでいる人の居場所づくりや相談窓口の事業を進めている。所長の藤田亮久さんは「地域の中にこうした活動をしている団体があることを知ってもらいたい。理解や支援を広げ、この地域ならではのネットワークづくりを目指したい」としている。

清掃活動は、協会メンバーと一緒に週一回、利用者数人が落ち葉拾いを中心に1時間程度汗を流す。有償事業で、利用者に賃金が支払われる。7月に参加した市内の男性(30)は「いい運動にもなりますね」と笑顔を見せた。同紙の介護を続ける中、

勝龍寺での清掃作業

ひきこもり支援 必要な視点は?



山崎総合施設での講演に聞き入る参加者(長岡京市神足2丁目「ハビオ」番地)

長岡京で交流セミナー

「訓」市1町のひきこもり当事者や家族らの「支援者交流セミナー」地域つくりと個別支援が、長岡京市神足2丁目「ハビオ」番地で開かれた。支援者や当事者も家族らが先進的な取り組みの話聞いた。

府ひきこもり訪問支援チーム「地域チーム」とNPO法人「訓」障害者事業協会「訓」の主催。府の地域推進事業の一環として実施した。会場とオンラインで約50人が参加した。支援者交流セミナーでは社会福祉法人さわらび福祉会(湖西市)の山崎樹総合施設長(46)が「普通といふ名の壁」ひきこもり支援の実践から見た社会をテーマに講演。当事者や家族を取りまく社会状況について説明し、法人や民生児童委員、保健師と市職員などが分野と所属を越え参加するチーム甲斐・湖南ひきこもり支援チーム「訓」の取り組みのほか、体験談を交え種々ツールを急がない寄り添い方も支援に必要な視点話した。「彼ら彼女らが社会の中を求められる存在にしたい」と本人自身が話している。ひきこもり状態の人が隠れていても目撃できる支援者ネットワークが必要。ひきこもり状態の人が隠れていても目撃できる支援者ネットワークが必要。ひきこもり状態の人が隠れていても目撃できる支援者ネットワークが必要。

啓発活動

結果急がず／認められている自覚を

ひきこもり支援者交流会